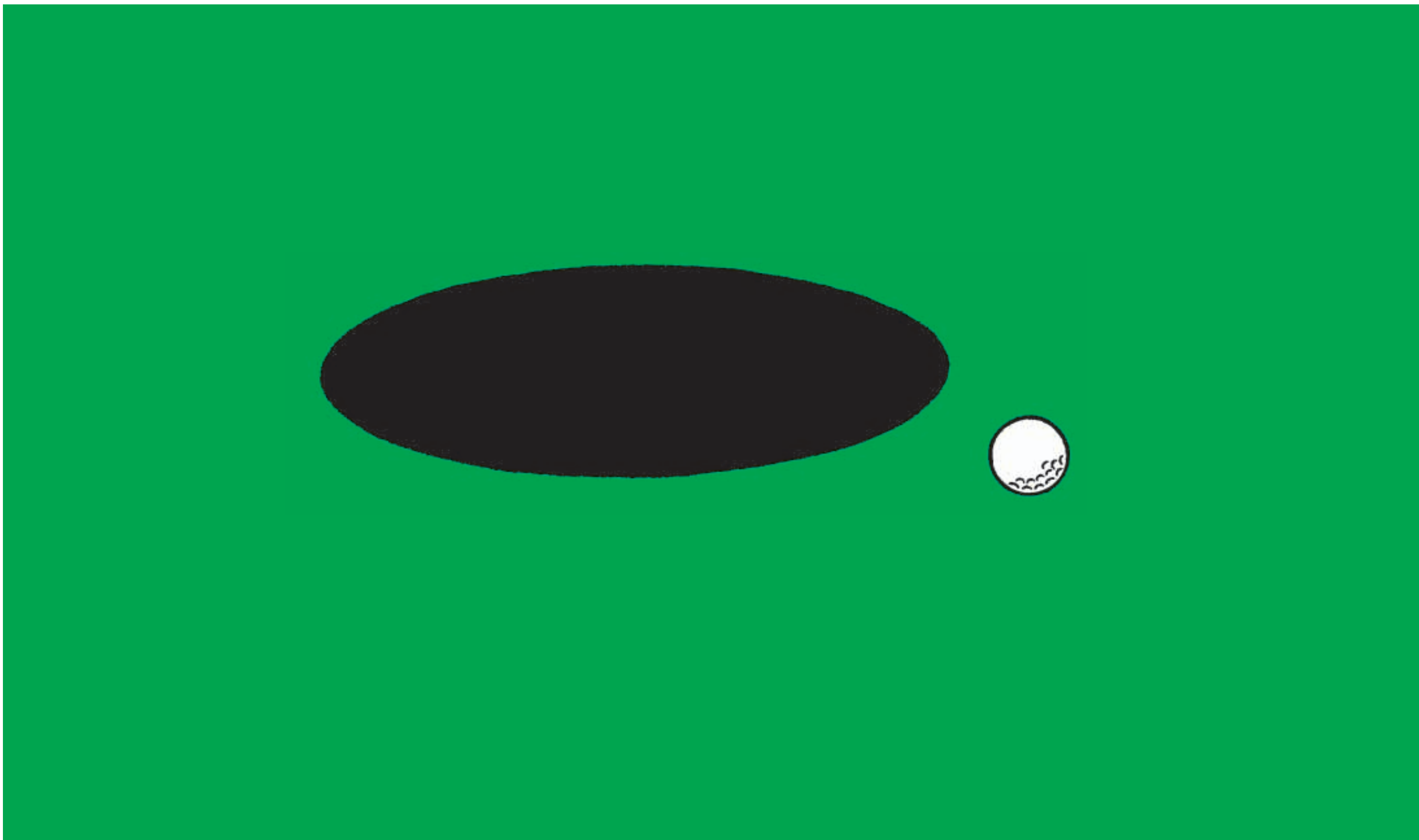


イメージしてください。

残り3mのパットを、あなたは楽々と沈めてみせた……

デジタルカメラの性能を格段にスコアアップさせた秘密は
光のボールを受け取る、その「カップ」にありました。



しかし、残念ながら、あなただけではありませんでした。いつもならむずかしい距離の、しびれるようなパットを、他のメンバーもつぎつぎに沈めていきます。なぜなら……カップが大きいから。このゴルフボールを「光」と考えてください。それを受け取るカップにあたるのが、CCDの「画素」です。

当然ですね。カップが大きいほど、ボールの入る確率は高くなる。CCDでは、感度が高くなることを意味します。デジタルカメラの「電子の目」といべきCCDは、この「画素」を集積したもので、ここに受け取った光で画像をつくります。デジタルカメラの性能は、一般によく「画素数」で表されますが、従来型のCCDでは、同サイズなら画素数を増やすだけ画素自体は小さくなり、感度は低くなるのです。飛距離は伸びたけど……という、そんな感じ。

飛距離は長く、方向性がよく、アプローチは正確で、パットはずさない。それがゴルファーの理想のはず。デジタルカメラの理想の「高画質」も総合的なものでなければなりません。だから、むずかしい。大きなカップなんて、ゴルフでは非常識ですよ。高画素数のCCDでも、それは非常識でした。そうです。フジフィルムの開発した「スーパーCCDハニカム」は、まさに従来常識を破った画期的な構造によって、むずかしかった理想を実現したのです。

左の図をごらんください。従来型CCDは画素を格子状に配列しているのに対して、「スーパーCCDハニカム」は大きな画素をジグザグに高密度に配列。感度だけではありません。このジグザグの配列は、解像度も向上させ、同じ画素数ならより高い解像度が得られます。このように「スーパーCCDハニカム」は、感度や解像度をはじめとする、総合的な「画質」のすべてを飛躍的に向上させているのです。開発チームは、ことし「ウォルター・コソノキー賞」を受賞。CCDの発明者を記念した、この分野で最も「メジャー」なタイトルです。

飛ばして、寄せて、確実に沈めるゴルフのように。心にくいほど、鮮やかに。「スーパーCCDハニカム」のその実力は、フジフィルムのデジタルカメラ「ファインピックス」シリーズでお楽しみください。快心のティーショット、神技のバンカーショット。そして、優勝トロフィを手に、笑顔のスナップショットにも。

国境やことばを越えたコミュニケーション。それが、image。私たちは過去に例のない質と量と速度の「imageの世紀」を、すでに迎えています。光学、化学、電子工学から認知科学の領域まで。フジフィルムは「imageを科学する」世界的フロンティアとして、これからも進みます。

10
VOL.

スーパーCCDハニカム
FUJIFILM
I&I-Imaging & Information
www.fujifilm.co.jp

imageする会社。FUJIFILM